高岡市埋蔵文化財調査概報第19冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅲ

―平成3年度，南条地区南東部の遺跡分布調査―

1992年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第19冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅲ

―平成3年度，南条地区南東部の遺跡分布調査―

1992年3月

高岡市教育委員会

例　言

1．本書は，富山県高岡市における埋蔵文化財分布調査の概要報告書である。

2．本調査は，平成３年度の国庫補助金の交付を受けて，高岡市教育委員会が実施した。

3．調査対象地は，高岡市内，旧市南部地域の内，南条地区南東部である。

4．現地調査は，平成３年４月８日から同年12月27日までの実働29日間である。

5．本調査は，高岡市教育委員会社会教育課文化係主任山口辰一が担当し，社会教育課長佐野嘉朗，文化係長大石茂が総括した。

6．本書の執筆は山口が担当した。

凡　例

遺跡，埋蔵文化財包蔵地

▼ 弥生・古墳時代遺物採集地点

▲ 古代遺物採集地点

● 中世遺物採集地点

■ 近世遺物採集地点

調査参加者名簿

現地調査

五十里文子，稲場由美子，沢田優子，高田えみ子，高田ききょう，棚田知佐子，松井弘子，宮下真知子

整理

稲場由美子，太田智子，楠友栄，高田えみ子，松井弘子，三島幸代，宮下真知子

目　　次

例　言
目　次

Ⅰ　序　　説 …… 1

Ⅱ　　南条地区南東部 …… 3

1．概観 …… 3
2．各遺跡の様相 …… 6
3．遺物 …… 11

Ⅲ　　結　　語 …… 12

図　面　目　次

図面1　遺物実測図　　下佐野遺跡、荒見崎北遺跡
図面2　遺物実測図　　諏訪遺跡，蔵野町遺跡、荒見崎村内遺跡

図　版　目　次

図版1　遺跡　南条地区南東部　1．下佐野遺跡（北）
2．下佐野遺跡（南）
図版2　遺跡　南条地区南東部　1．石名瀬A遺跡（東）
2．西佐野千代遺跡（北西）
図版3　遺跡　南条地区南東部　1．諏訪遺跡（北）
2．諏訪遺跡（西）
図版4　遺跡　南条地区南東部　1．辻南遺跡（北東）
2．辻南遺跡（南）
図版5　遺跡　南条地区南東部　1．荒見崎北遺跡（北）
2．荒見崎北遺跡（南）
図版6　遺跡　南条地区南東部　1．西藤平蔵遺跡（南）
2．荒見崎村内遺跡（南）

挿　図　目　次

第1図　分布調査事業区分図（1／30万）…… 1
第2図　調査対象地区分図（1／15万）…… 2
第3図　南条地区南東部位置図（1／5万）…… 3
第4図　南条地区南東部遺跡地図〔1〕（1／1万5千）…… 4
第5図　南条地区南東部遺跡地図〔2〕（1／1万5千）…… 5
第6図　下佐野遺跡位置図（1／5,000）…… 7
第7図　荒見崎村内遺跡位置図（1／5,000）…… 10

Ⅰ 序　説

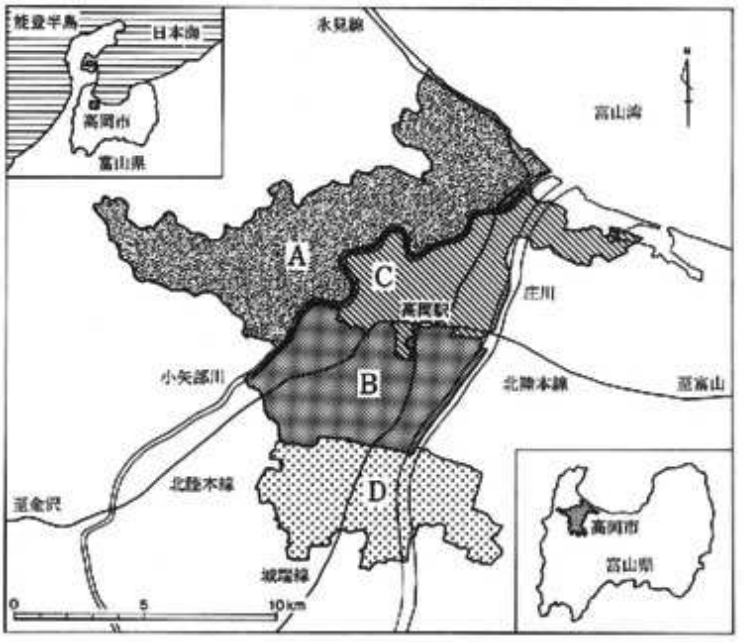
高岡市の位置

高岡市は富山県の北西寄りに位置する。北側は富山湾に臨む。東側は新湊市・大島町・大門町・小杉町と，南側は砺波市・福岡町と接する。また北側は，能登半島の基部東側を占める氷見市である。市域の大部分は，庄川と小矢部川の２大水系によって形成された沖積平野である。これらは，庄川による沖積扇状地部分と，庄川と小矢部川による沖積低地部分とに大別される。砺波平野の北半部と射水平野の西端部に当たる。一方北西部には，西山丘陵と，これに続く二上丘陵が走っている。

西山丘陵埋蔵文化財分布調査

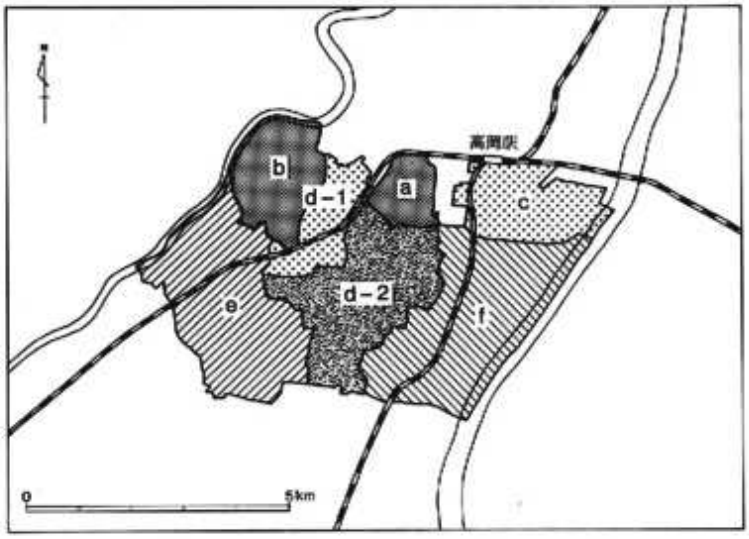
小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）は，多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在地として知られていた。昭和50年代に入り道路工事等に伴い，いくつかの遺跡の発掘調査が実施された。当地域に対する各種の開発行為が進むと共に，高岡市は，西山地区での総合開発計画を検討していた。

このような状況の中で，西山・二上地域における遺跡の分布状況や内容の掌握が，埋蔵文化財の保護上急務となってきた。以上のことから，高岡市教育委員会では，昭和58年度～昭和62年度の５箇年に亘り，国庫補助を得て「西山丘陵遺跡分布調査事業」を実施するに至った。その成果は各年度ごとに『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報』Ⅰ～Ⅴとして刊行されている。



第１図　分布調査事業区分図
（１／30万）

A．西山丘陵地域
B．旧市南部地域
C．旧市北部地域
D．戸出・中田地域



第2図　調査対象地区分図

（1／15万）

a．木津地区

b．東五位地区

c．下関地区

d－1．南条地区北西部

d－2．南条地区南東部

e．千鳥ケ丘地区

f．二塚地区

高岡市埋蔵文化財分布調査

西山・二上地域以外にも，高岡市域に数々の遺跡が存在することは言をまたない。平野部が主体を占める地域でも，農地転用等数々の開発行為がなされつつあるのが現状である。これに対して，遺跡の分布状態の把握が不十分であり，国庫補助・県費補助を得て西山・二上地域以外の市域における分布調査に着手することになった。

高岡市は面積15,000haを計る。この内約6,000haは，前述の通り西山丘陵分布調査として，実施済みの地域である。すなわち，残り9,000haが対象地となった。広い地域であるので，３地域に大別した。市域の南部に当たる旧戸出町・旧中田町を１つの地域，そして残りの地域は昭和30年以前に合併した町・村よりなるので，これをＪＲ高岡駅付近を基準に南北に分け，旧市南部地域，旧市北部地域と称することにした。３地域の中では「旧市南部地域」が，最も遺跡密度が濃いと判断されたので，この地域より開始することにした。

地区割りは，小学校区を基準とし，第２図のように区分した。これらを５つのブロックに分け下記のように５箇年で調査を終えるように配分した。

Ⅰ．平成元年度調査実施地区，ａ；木津地区，ｂ；東五位地区

Ⅱ．平成２年度調査実施地区，ｃ；下関地区，ｄ－１；南条地区北西部

Ⅲ．平成３年度調査実施地区，ｄ－２；南条地区南東部

Ⅳ．平成４年度調査予定地区，ｅ；千鳥ケ丘地区

Ⅴ．平成５年度調査予定地区，ｆ；二塚地区

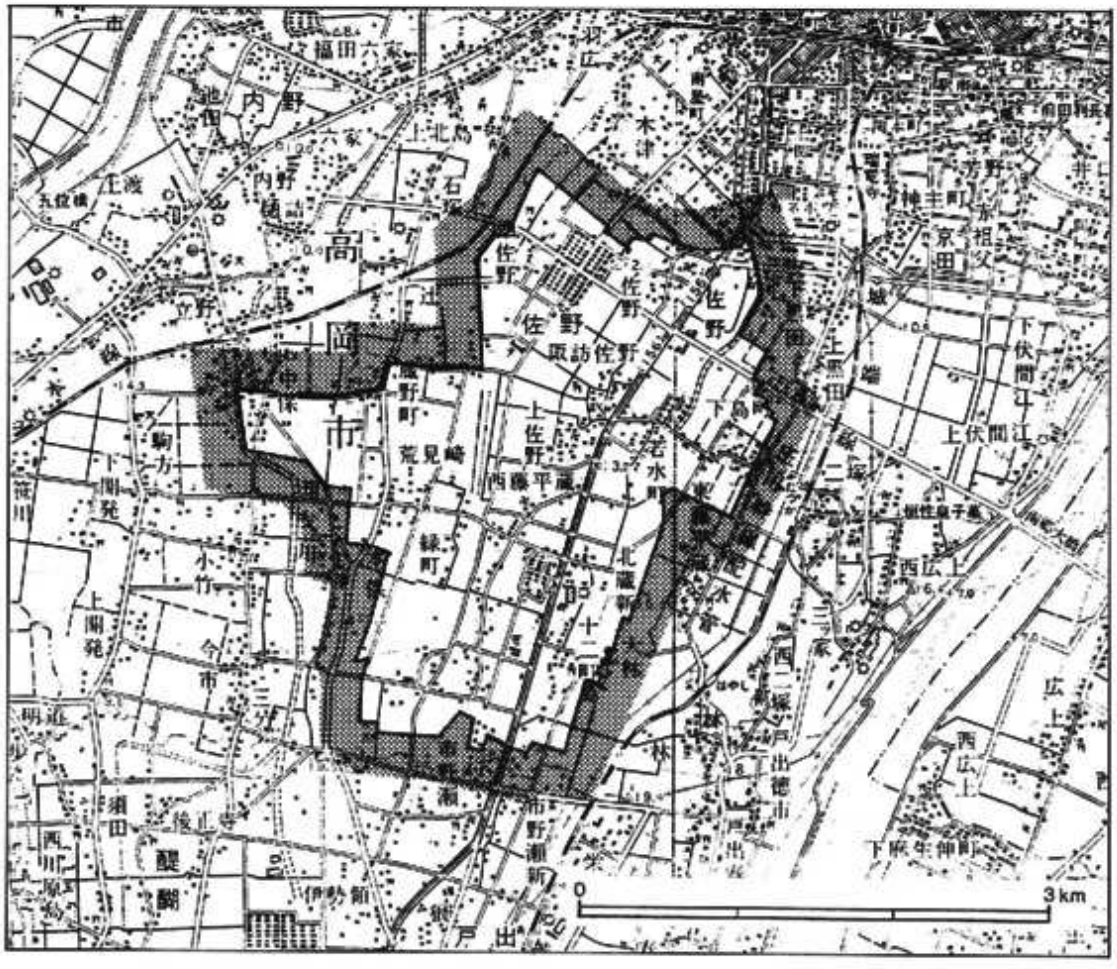
今年度の分布調査

以上のような経緯で，本年度は，南条地区南東部において分布調査を実施することに至った。現地調査は，４月と12月に実施した。

Ⅱ　南条地区南東部

1．概　　観

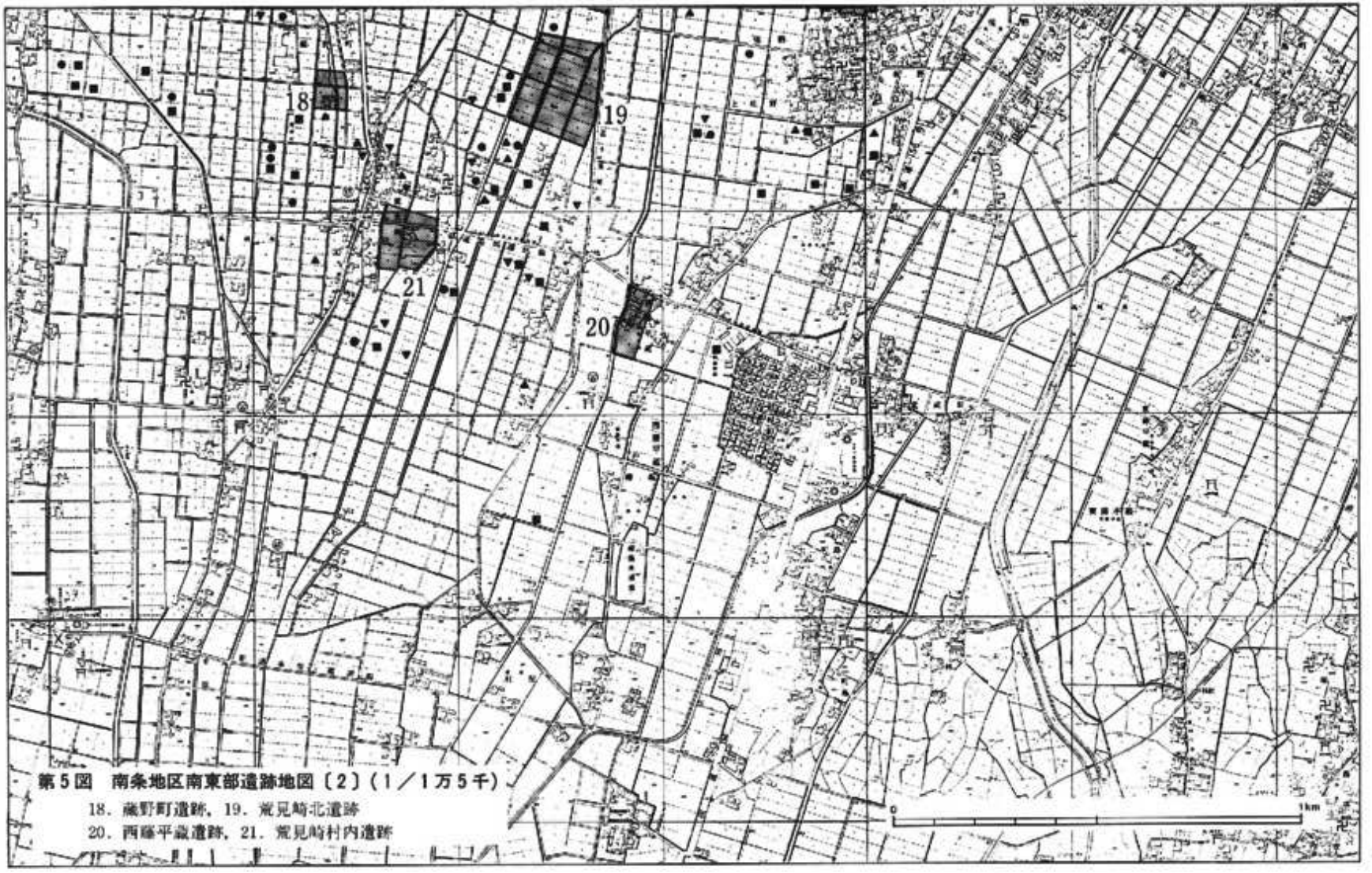
南条小学校下の南東部，約542haが調査対象地である。南条小学校下は約789haを占め，残りの北西部約247haは，平成２年度調査実施済みである。東側の千保川と西側の祖父川に挟まれた地区である。旧佐野村の大部分と旧福田村の蔵野町，荒見崎を含む。地形的には，沖積低地部分となるが，庄川が形成した沖積扇状地の前面部分とも言うべき所であり，当地区の南側は扇状地である。このような立地のため，当地区は湧水地帯として著名である。また耕地整理等で平坦になっているが，かって，小河川の開析谷や谷地形が各所で認められた所でもある。



第３図　南条地区南東部位置図（1／5万）

第4図　南条地区南東部遺跡地図〔1〕(1／1万5千)

11．東木津遺跡，12．泉ヶ丘遺跡，13．下佐野遺跡
14．石名瀬A遺跡，15．西佐野千代遺跡，16．諏訪遺跡
17．辻南遺跡，18．霞野町遺跡，19．荒見崎北遺跡



第5図　南条地区南東部遺跡地図〔2〕(1／1万5千)

18．蔵野町遺跡，19．荒見崎北遺跡
20．西藤平畝遺跡，21．荒見崎村内遺跡

2．各遺跡の様相

11. 東木津遺跡

東木津集落の南側，泉ケ丘団地の北側の台地上に位置している。標高約11mを計る。現況は水田・畑地である。遺跡の範囲は南北350m×東西600mである。採集された遺物は，土師器・須恵器がほとんどを占める。特に須恵器が多い。これに中世の珠洲が若干量加わる。

当遺跡は，先に『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅰ』で報告したものである。遺跡の範囲が平成元年度の調査対象地区と，今回の対象地区にまたがるため，再び取り上げた。遺跡の範囲については，今回の分布調査の成果等も考慮して検討の結果，先に報告したものと若干異なるものとなった。

当遺跡の南側には，後述の泉ケ丘遺跡が存在し，南東側は下佐野遺跡に繋がる。遺跡の時代としては奈良・平安時代が中心であると把握している。

12. 泉ケ丘遺跡

泉ケ丘団地は，下佐野集落と西佐野集落の中間に位置し，昭和37年～昭和40年頃造成された新団地である。この造成工事に伴って，遺物が出土し遺跡の存在が確認された。遺物は縄文土器と土師器・須恵器である。遺跡の時代は，縄文時代晩期と古墳時代後期～平安時代である。現在は団地の下になっているので新たに採集された遺物はない。

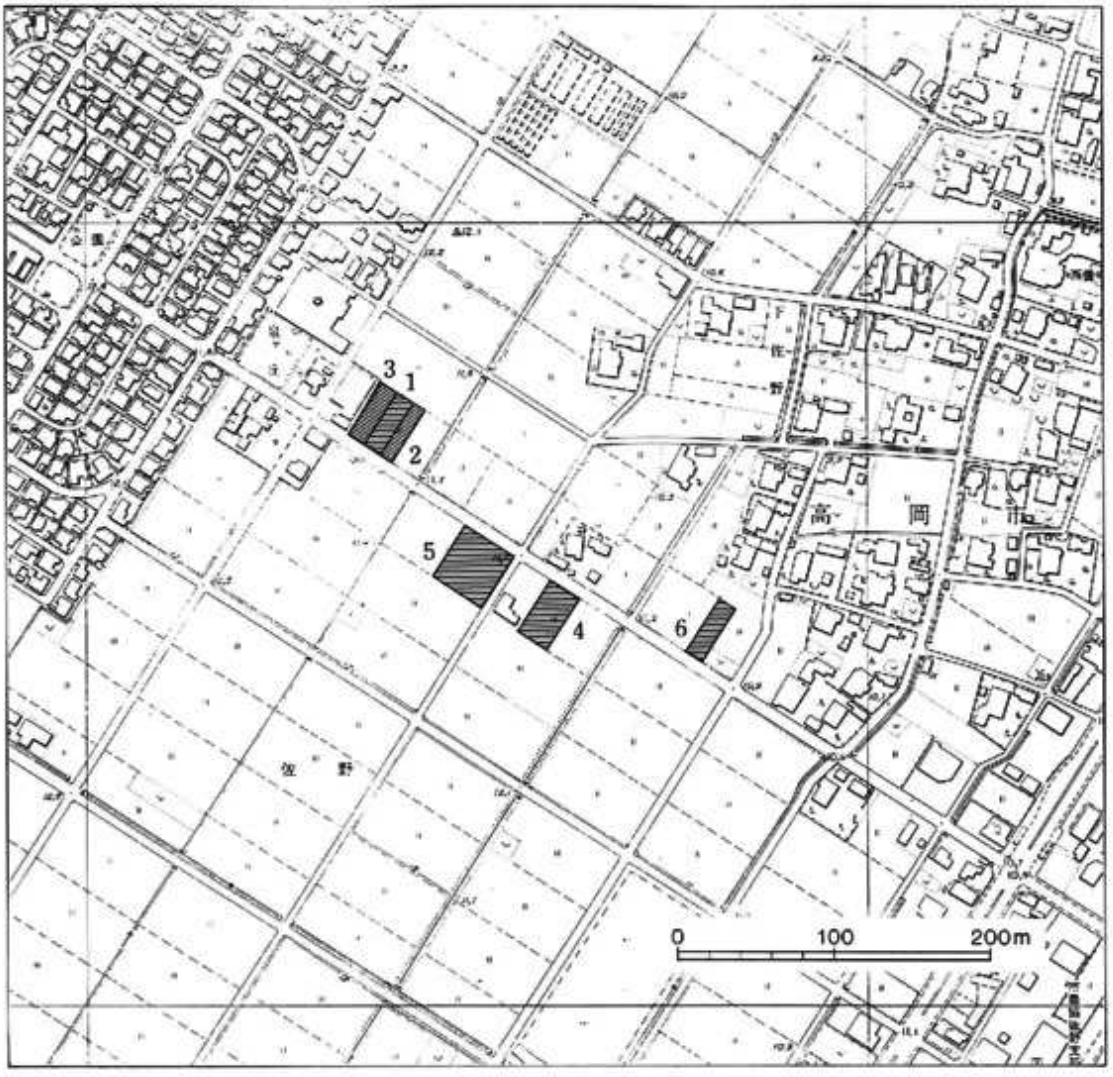
団地のある地点は，元大字佐野の一部であり，標高約12mを計る水田であった。当遺跡の北側には東木津遺跡が拡がり，東側には下佐野遺跡が拡がっている。この両遺跡の範囲が広いことが除々に判明してきており，泉ケ丘遺跡がこれらの遺跡の一部であるとの解釈も可能である。

13. 下佐野遺跡

沖積低地部に位置している。大きくみれば，東側の千保川と西側の和田川に挟まれた微高地帯に位置している。下佐野集落の南西方で，泉ケ丘団地の南東側一帯が遺跡である。遺跡の範囲は南北650m×東西450mである。現況は，圃場整備事業が実施された水田地帯であり，標高約11m～12mを計る。南西側が高く北東側が低い地形で，比高差は約１～２mと少ない。しかし，圃場整備事業前はもっと比高差があり，南西側より北東側へ土砂が移動されたとのことである。

当遺跡は，昭和38年にその存在が確認された。翌年の昭和39年には，区画整理事業が実施され，その時に多量の遺物が出土した。その後昭和42年に，上野章氏により，出土遺物を中心に当遺跡の紹介が行われ，広くその存在が知られることになった。

小杉町太閤山方面から西方へ向かう「主要地方道，高岡・婦中線」は，大門町企業団地内を通り，南郷大橋にて庄川を渡り，北へ折れて高岡駅方向へ向かう。これを北へ折れず直進して，約２km行くと国道 156号線と交差する。さらに西方へ進むと，当遺跡を横断して泉ケ丘団地方面へ向かう。この当遺跡の北部を横断している道路沿いの開発が最近進み，それに伴って発掘調査や試掘調査を実施するにいたった。第６図に示した地区でいずれも農地転用による個人住宅や店舗



第6図　下佐野遺跡位置図（1／5,000）

No.	地区名	記号	調査期日	調査内容
1	明光電気地区	ＳＡ１	平成２年度発掘調査	中世の井戸址５基他
2	駐車場地区	ＳＳＡ４	平成３年度試掘調査	中世の井戸址２基他
3	中尾地区	ＳＡ２	平成３年度発掘調査	中世の井戸址１基他
4	井波地区	ＳＡ３	平成３年度発掘調査	弥生時代末の竪穴住居址３基・坑他
5	大表地区	ＳＳＡ５	平成３年度試掘調査	弥生時代末の土坑・溝他
6	國沢地区	ＳＳＡ６	平成３年度試掘調査	遺跡の範囲外

建設等である。これらの調査地区は，ここ１～２年の間に調査したところである。過去の知見や今回の分布調査，そして発掘調査・試掘調査により，当遺跡の内容が除々に判明してきている。

現在のところ，遺跡の中心をなしている時代は，弥生時代後期と中世後期である。弥生時代後期では，竪穴住居址や土坑が検出されている。中世後期では，井戸址や溝である。また出土遺物も当然この両方の時代のものが多い。これに続くのが奈良・平安時代であり，この段階の遺物も一定量出土している。また古墳時代後期の遺物も確認している。

表面採集された遺物は，奈良・平安時代の須恵器や珠洲が中心である。図面１にその一部を示した。

当下佐野遺跡は，一部途切れる時期があっても，弥生時代後期から中世後期に至るまで連綿と営まれた遺跡と言える。

14. 石名瀬Ａ遺跡

石名瀬集落の東方，石名瀬公民館のある一帯が遺跡である。標高約13mを計る。現況は水田である。遺跡推定範囲の西側に接して，五十玉用水（旧和田川）が北流している。遺跡の範囲は，南北150m×東西120mとしたが，拡がる可能性もある。昭和57年度に圃場整備事業に伴い，当遺跡の試掘調査を実施している。試掘調査の成果や採集遺物等より，時代的には，弥生時代中期，古墳時代前期，奈良・平安時代である。

15. 西佐野千代遺跡

石名瀬Ａ遺跡の南側約200mの所に当遺跡が所在する。遺跡推定範囲の西側に接して，五十玉用水（旧和田川）が北流している。標高約13mを計る。現況は，水田，宅地，学校敷地である。昭和46年，南条小学校設立工事の際，北東隅より遺物が出土し遺跡の存在が確認された。また昭和57年度に圃場整備事業に伴い，当遺跡の試掘調査を実施している。調査地点は南条小学校の北西側である。この時遺構も検出されている。遺跡の範囲については，これらの点を加味して，南条小学校の敷地を一部含んで，その北側一帯と推定し，南北170m×東西250mとした。時代的には，弥生時代中期，古墳時代前期，奈良・平安時代である。

16. 諏訪遺跡

諏訪佐野集落の西側に，市立佐野保育園や諏訪神社が位置する。当遺跡は，この保育園や神社周辺およびその西側一帯である。標高約13mを計り，現況は水田や畑地である。遺跡の範囲は南北250m×東西350mである。

遺物は，須恵器が中心でこれに土師器や珠洲が若干量加わる。図面２に採集した遺物の一部を示した。

遺物の散布状況から，遺跡の中心地は諏訪神社付近と推定される。時期的には奈良・平安時代を中心とする遺跡と推定される。北側に位置する下佐野遺跡と比べて，遺跡の規模が小さく，また遺跡の存続期間も短い。このようなことから，下佐野遺跡（集落）の子村的な遺跡としての想定も可能であろう。

17. 辻南遺跡

石名瀬集落の南側，辻集落の南東方に位置する。標高約13mを計る。現況は水田である。遺跡推定範囲の東側に接して，五十玉用水（旧和田川）が北流している。遺跡の範囲は，南北320m×東西200mである。遺物は，古墳時代～奈良時代の土師器を中心に，須恵器や珠洲も採集されている。

18. 蔵野町遺跡

蔵野町集落の南側，蔵野町集落と荒見崎集落の中間あたりで，高岡市農協南条カントリーエレベーターの東側である。標高約13mを計る。現況は，水田，畑地，宅地等である。遺跡の範囲は南北90×東西80mである。平成２年度に，農地転用による資材置場建設に伴い試掘調査を実施したが，遺構は確認されず，遺物も出土しなかった。採集された遺物は，土師器が中心で，須恵器や珠洲が少量である。土師器の中には弥生土器も含まれているかもしれない。時代的には，古墳時代前期が中心としておく。

19. 荒見崎北遺跡

荒見崎集落の北東方約500mに位置する。標高約13mを計る。現況は水田で，ここから弥生時代中～後期の土器を中心に多くの遺物が採集された。遺跡の範囲は，南北240m×東西200mである。東限は，五十玉用水（旧和田川）で画されている。古墳時代以降の遺物も採集されているが，極めて少なく，弥生時代中～後期を中心とする遺跡と把握しておきたい。採集した遺物の一部は，図面２で示した。

20. 西藤平蔵遺跡

西藤平蔵集落に接して存在していると考えられる遺跡，以前土師器が出土したとされる。標高約13mを計る。現況は水田や宅地である。奈良・平安時代の遺跡とされている。今回の分布調査では，以前土師器が出土したとされる地点より南側で，土師器が採集された。古墳時代～奈良時代頃のものである。遺跡の範囲は，東西に走る道路（主要地方道高岡環状線）の南側一帯と判断し，一応南北100m×東西40mとしておく。

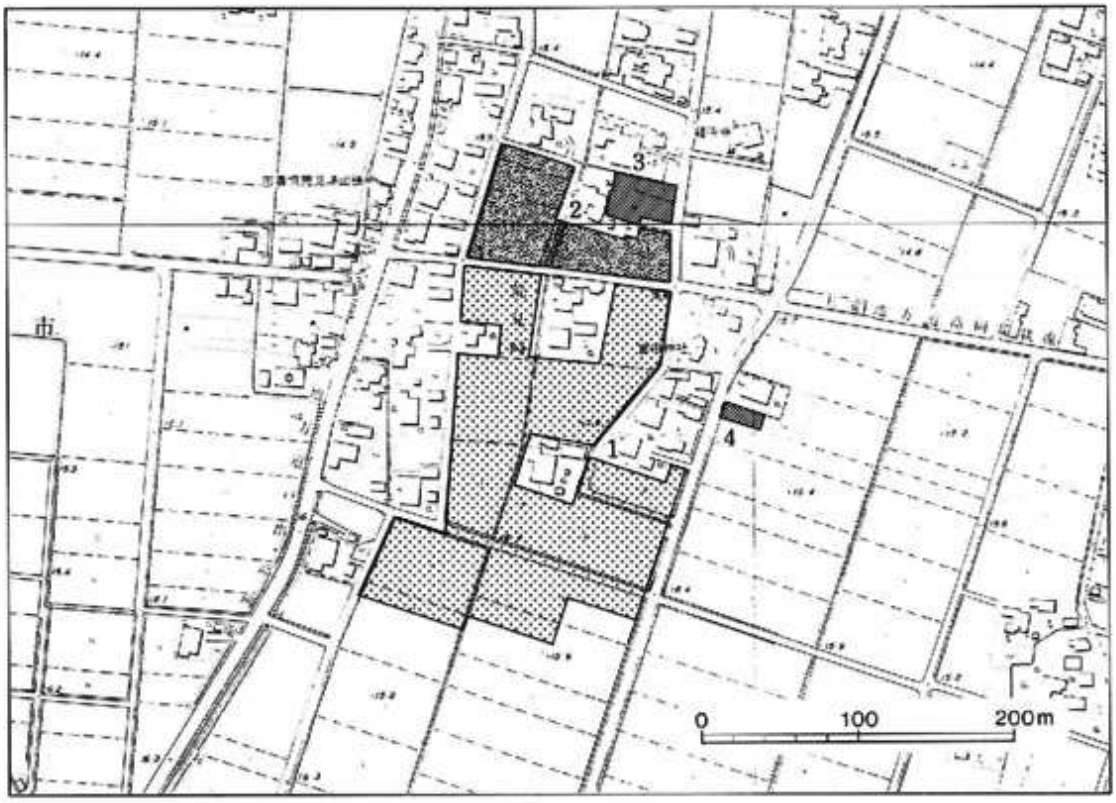
21. 荒見崎村内遺跡

荒見崎集落に接して所在する遺跡である。標高約13mを計る。現況は，水田，畑地，宅地等である。遺跡の範囲は南北100m×東西100mである。

昭和31年に確認された遺跡である。弥生土器や太型蛤刃石斧等が採集されている。その後，近年に至り，数回の試掘調査が実施されている。この試掘調査の位置は第７図として示した。

主要地方道高岡環状線は，石塚，辻方面より南下し，荒見崎集落に至る。ここで東方へ折れ，高岡市と砺波市方面を南北に結ぶ156号線に至る。この東西の道路が荒見崎集落を南北に分ける形となっている。また，集落の南東部に宮川神社が位置している。

昭和56年度と昭和57年度の２箇年に亘り，県営圃場整備事業に関わる試掘調査を実施した。昭和56年度は東西の道路の南側で，昭和57年度は北側で実施したものである。また，昭和62年度と



第7図　荒見崎村内遺跡位置図（1／5,000）

1　県営圃場整備昭和56年度地区　　2　県営圃場整備昭和57年度地区
3　昭和62年度，宮脇地区　　4　平成3年度，農業構造改善センター地区

平成3年度には農地転用に関わる試掘調査を実施した。昭和62年度は宮川神社の東方であり，平成3年度は，宮川神社の北西方，東西の道路の北側で実施した。

いずれの調査においても遺構の検出までには至っていない。また，昭和62年度の調査では，遺物の出土もなく，狭い範囲の調査であるこれのみで断定するわけには行かないものの，遺跡の東限を推定させるものである。これらの試掘調査や，今回の分布調査の結果等を検討して，第5図に示したように，東西の道路の南側で，宮川神社の西側を遺跡の中心部と判断した。もちろん，試掘調査の内容等，不十分な点も多く，遺跡の範囲については，確定的なものではない。なお，時代的には，弥生時代中期が中心と言える。

当遺跡の名称については，以前遺跡所在地の大字を取って「荒見崎村内遺跡」とされていた。その後，単に荒見崎遺跡と称する場合もあったが，荒見崎北遺跡と区別するためにも，元の名称である「荒見崎村内遺跡」としておく。

なお，遺物の一部は図面2で示した。

3．遺　物

図面1・2で，今回採集した土器の実測図を示した。下佐野遺跡，諏訪遺跡，蔵野町遺跡，荒見崎北遺跡，荒見崎村内遺跡の遺物である。以下，各遺跡ごとに若干説明をする。

1．下佐野遺跡

図面1－101～111。奈良・平安時代の土師器・須恵器と珠洲である。101．102は土師器の甕の口縁部である。口端部は内方へ折り曲げている。103～105の3点は，須恵器高台付杯の体下・底部である。106．107は須恵器蓋で106が口縁部，107がつまみ部である。108の須恵器はどのような形態になるか不明である。109は須恵器の甕の口縁部である。口端部は肥厚する。110は珠洲の擂鉢である。底部のみの破片で，口縁部の形態は不明である。111は珠洲の壷の口縁部である。口縁部外面には櫛描きの波状文が廻る。

2．諏訪遺跡

図面2－112～123。奈良・平安時代の須恵器と珠洲である。112～114の3点は，須恵器高台付杯の体下・底部である。115．116は須恵器蓋の口縁部である。117は須恵器の大甕の頸部片である。118～122の5点は，須恵器甕の胴部片である。内面が青海波文で外面が叩き目である。123は珠洲の擂鉢である。口縁部片で口唇部には櫛目波状文が廻る。

3．蔵野町遺跡

図面2－124．125。珠洲の甕の口縁部片である。

4．荒見崎北遺跡

図面1－126～133。弥生土器と奈良・平安時代の須恵器である。弥生土器は中期のものと後期のものがある。

弥生中期の土器

126。通有の大きさの甕の口縁部。口径21.4cm，口端部内面に櫛描羽状列点文が廻る。

127。小型の甕の口縁部。口径12.4cm，口端部外面に櫛描斜行列点文が廻る。

128。甕の胴下・底部。底径 6.4cm，胴下部は内外面とも刷毛目。

弥生後期の土器

129．130。小型の甕の口縁部。口径は11.7cmと11.9cm。口縁部外面に凹線文が廻る。

131。大型の甕の口縁部。口端部は欠損しているが，復元径は27.5cmとなる。凹線文が廻る

132。大型の甕の口縁部。口径25.7cm，口縁部は屈曲して立ち上がる。

須恵器

133。口径24.8cm，鍋類の口縁部と推定している。

5．荒見崎村内遺跡

図面2－134～136。弥生土器と珠洲である。134は弥生時代中期の甕の口縁部。135は同じく甑の底部。中央に穿孔が一つある。137は珠洲の甕の口縁部。

Ⅲ 結　語

今回の調査対象地区は，東側の千保川と西側の祖父側に挟まれた地区であり，また当地区を東西に区分するかのように，中央部に和田川（五十玉用水）が北流している。

遺跡の標高は11～13mである。今回確認乃至再確認した遺跡は，11箇所である。これらをその立地より区分すると以下のようになる。

1．千保川と和田川に挟まれた微高地に立地する遺跡

東木津遺跡，泉ケ丘遺跡，下佐野遺跡，諏訪遺跡の4遺跡

2．和田川の谷部に臨む地点に立地する遺跡

石名瀬A遺跡，西佐野千代遺跡，辻南遺跡，荒見崎北遺跡，西藤平蔵遺跡の5遺跡

3．和田川と祖父側に挟まれた微高地に立地する遺跡

蔵野町遺跡，荒見崎村内遺跡の2遺跡

遺跡の時期については，泉ケ丘遺跡が縄文時代晩期に始まり一番古い。その他の遺跡では，弥生時代中期に始まる遺跡が多く，当地区の特徴と言える。弥生時代後期に始まる下佐野遺跡については，付近に縄文時代晩期の泉ケ丘遺跡がある点からも，今後弥生時代中期の遺構・遺物が確認される可能性が高いと言える。東木津遺跡や諏訪遺跡は，奈良・平安時代を中心とする遺跡ではあるが，付近に下佐野遺跡が所在することから，その源流は弥生時代に求められよう。

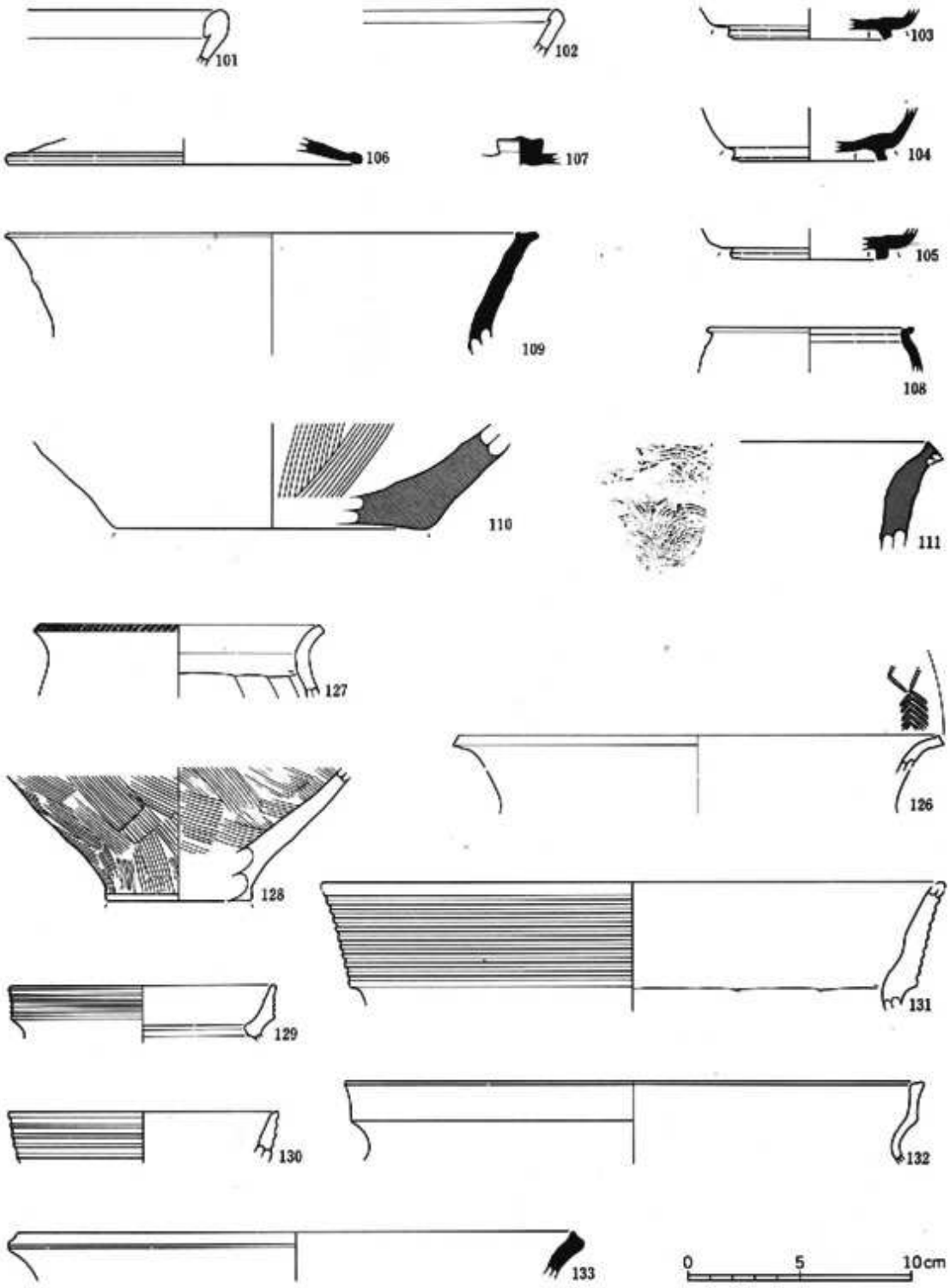
参考文献

上野　章　1967　「高岡市下佐野遺跡」『大境』第3号　富山考古学会

上野　章　1967　「高岡市泉ケ丘団地採集の土器」『オジャラ』2　富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブO・B会

逸見　護　1982　『昭和56年度高岡市埋蔵文化財調査報告書－石塚遺跡，荒見崎遺跡，利賀野遺跡』高岡市教育委員会

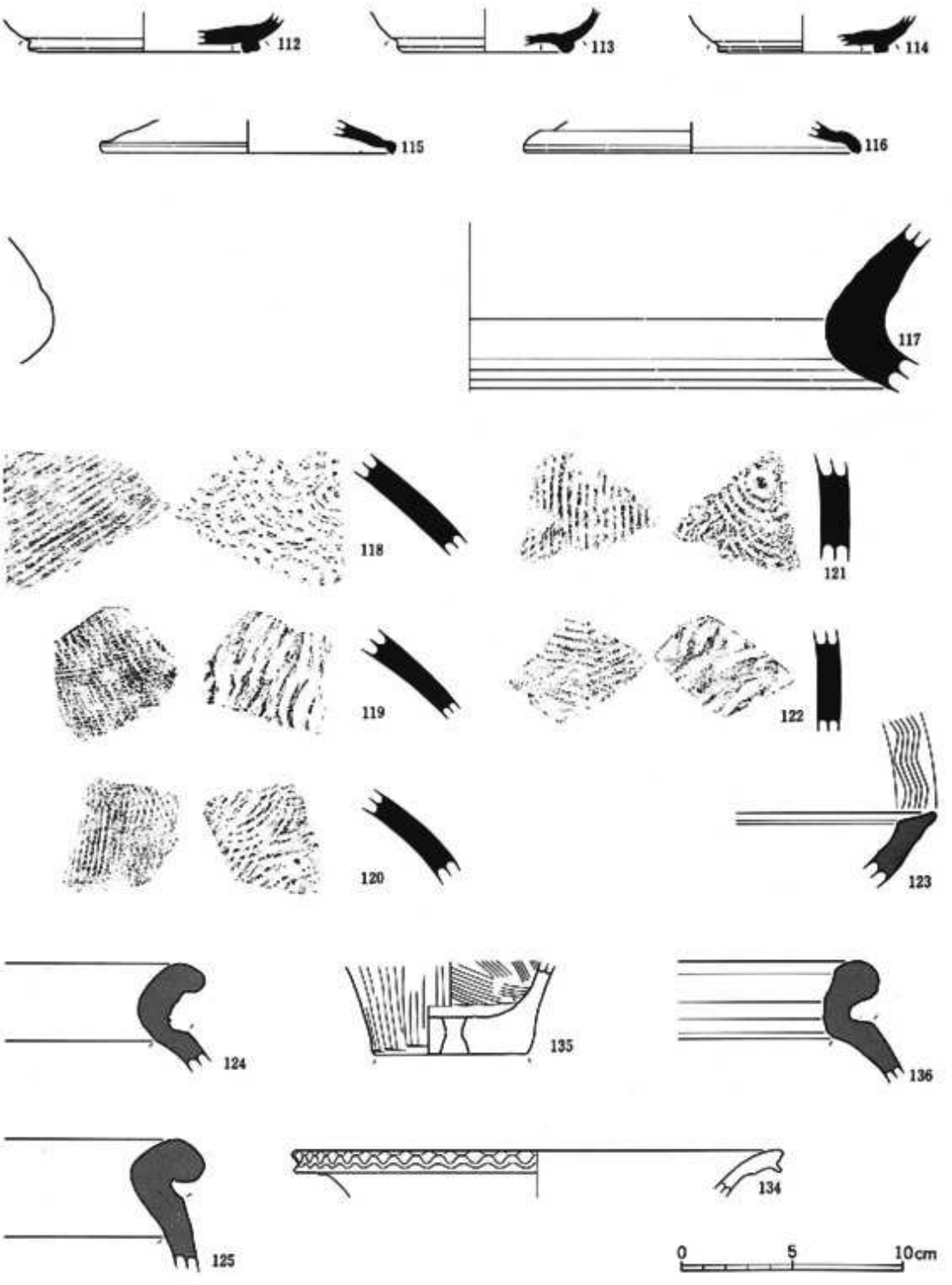
逸見　護　1983　『昭和57年度高岡市埋蔵文化財調査概報』　高岡市教育委員会



下佐野遺跡：101～111，荒見崎北遺跡：126～133

縮尺1／3

図面二　遺物実測図



諏訪遺跡；112～123．蔵野町遺跡；124．125．荒見崎村内遺跡；134～136　　縮尺1／3

1．下佐野遺跡（北）

2．下佐野遺跡（南）

図版二　遺跡　南条地区南東部

1．石名瀬A遺跡（東）

2．西佐野千代遺跡（北西）

1．諏訪遺跡（北）

2．諏訪遺跡（西）

図版四　遺跡　南条地区南東部

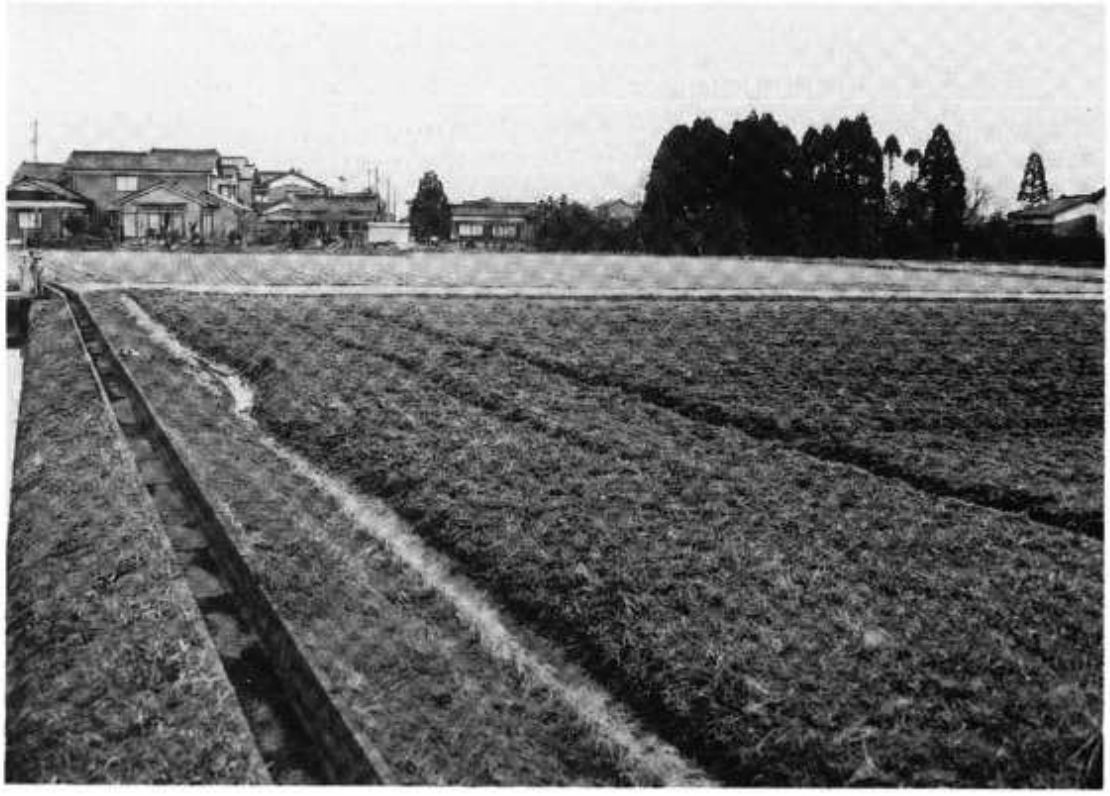
1．辻南遺跡（北東）

2．辻南遺跡（南）

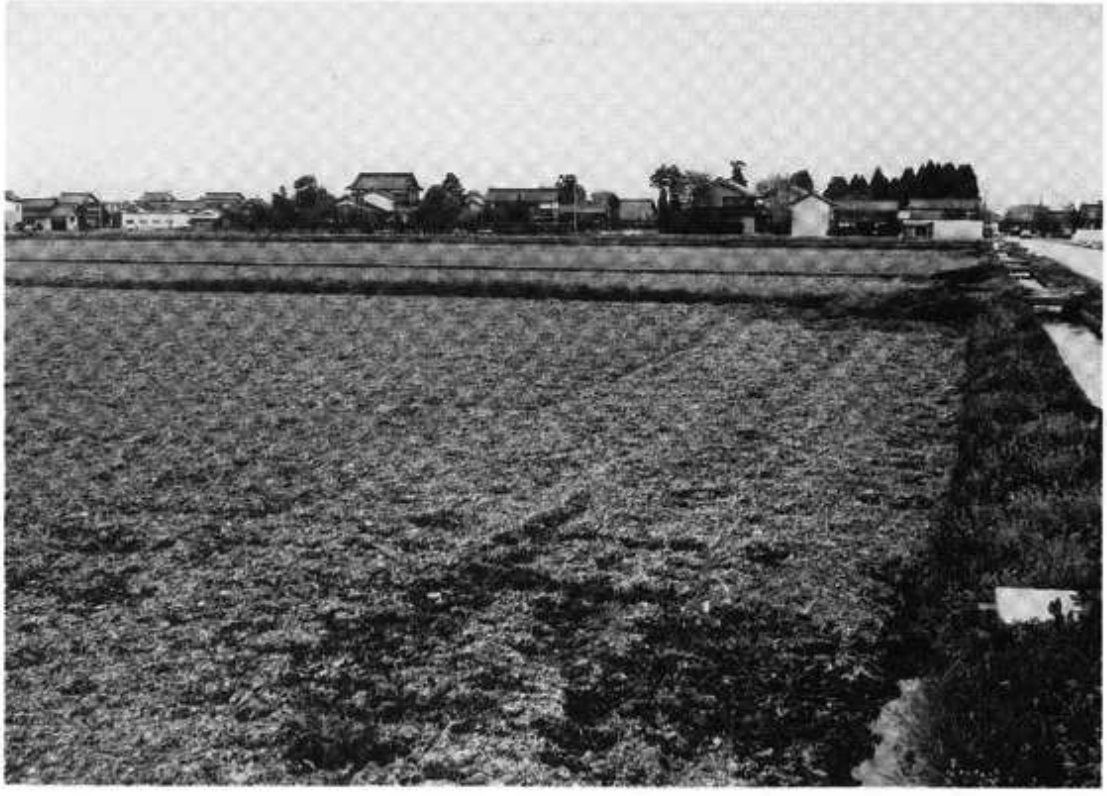
1．荒見崎北遺跡（北）

2．荒見崎北遺跡（南）

図版六　遺跡　南条地区南東部



1．西藤平蔵遺跡（南）



2．荒見崎村内遺跡（南）

高岡市埋蔵文化財調査概報第19冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅲ

発行者　高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7－50

1992年3月31日

印刷所　小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町3